

第2章 瀬長島観光拠点機能強化に向けた課題

第1章 瀬長島の現状を踏まえ、観光拠点機能強化に向けた課題を整理します。

課題① 瀬長島を最大限活かす土地利用が必要

瀬長島では、平成25年からの観光拠点整備事業や民間開発により、観光拠点としての整備が図られ、令和3年には、コロナ禍の影響を受けつつも、来島者は約273万人となりました。

今後、野球場、道路空間、駐車場空間を含む瀬長島全域において立地適正を踏まえた土地利用を行うことで、多くの観光客や市民を集め、より観光拠点としての地位を確固たるものにできる可能性を有しています。したがって、島全体を一つのエリアとして捉え、全体で最適化し、瀬長島を最大限活かす土地利用の取組みが必要です。

課題② 誰もがアクセスしやすい交通体系が必要

瀬長島では、自家用車、レンタカー及び公共交通（バス）アクセスによる一定の利便性を有しています。

一方、島内の駐車場は現状でも不足しており、道路混雑の発生、多数の路上駐車による交通安全上のリスク又は、景観の阻害など、観光面における魅力の低下（オーバーツーリズム）が生じています。今後もさらに、来島者は増加することが想定され、さらなる混雑が懸念されます。また、バスの停留所は2ヶ所のみで今後のまちづくりの展開にあわせた検討が必要である他、今後増加が想定される来島者に対し、バス路線だけでは対応できない可能性もあります。したがって、島全体を一つの拠点として捉え、誰もがアクセスしやすく、また、島内の回遊性も確保した交通体系の整備に向けた取組みが必要です。

課題③ 瀬長島らしい、全体で調和した街並みマネジメントが必要

瀬長島では、サンゴ礁や砂浜の海景、豊かな自然環境等魅力的な自然景観を有しています。また、観光拠点整備事業等により、基盤の整備が行われるとともに、レトロ角柱等の再現も行われました。

一方、道路等の公共空間、ホテル及び商業施設で十分な調和がとれていない街並みとなっている他、海沿いの路上駐車は魅力的な街並みを阻害する要因となっています。したがって、島全体を一つの空間と捉え、全体で調和した街並みの整備が必要です。

課題④ 観光マネジメントが必要

瀬長島では、これまで各主体が協力し、各種整備が行われてきました。

一方、現状は、島全体のマネジメント組織がなく、各主体がそれぞれで動いている状況です。今後も新たな開発が進み、より多くの来島者が想定されます。また、課題①～③に対応する取組を行うには各主体の連携が必要であり、今回の機能強化による整備にとどまらず、持続的に瀬長島を魅力的なものにしていくためには連携基盤も必要となります。したがって、島全体を一つの拠点と捉え、各主体が連携した取り組みを推進する、観光マネジメントの体系づくりが必要です。